

仙北市立病院等改革推進計画の概要

■地域医療を取り巻く状況【主な内容】

1. 地域医療の情勢

- 平成16年度から「新臨床研修制度」が義務化され、医学生が医師免許取得後、2年間医療現場で診療経験を積む制度に改定されました。
- 国は医療制度改革の一環として、療養病床のうち「医療型」23万床と「介護型」12万床併せて、平成24年度までに「21万床+α」に減らす方針を打ち出しました。
- 平成18年6月、秋田県が「医師登録紹介事業(ドクターバンク)」に取り組み、県内医療機関の求人情報の公開を始めました。
- 国は平成18年8月、秋田県を含む10県の国公立大学医学部の入学定員を最大10人、平成20年度から最長10年間定員増を認める方針を決定しました。
- 後期高齢者医療制度に対応するため、「秋田県後期高齢者医療広域連合」が発足し、平成20年4月から運営をしています。
- 平成19年4月、秋田県が「県職員医師採用派遣事業」を実施し、「医師確保総合対策事業」の取り組みを強化しました。
- 平成19年6月「地方財政健全化法」が成立し、平成20年度決算から病院などの公営事業を含む連結決算が導入されることになりました。
- 平成19年12月、国は「公立病院改革ガイドライン」を都道府県に通知し、関係自治体に平成20年度中の「公立病院改革プラン」の策定を求めています。
- 平成20年7月、国は「五つの安心プラン」を打ち出し、地域医療の確保等に必要診療報酬見直しの検討などを示しました。

■大仙・仙北医療圏域の状況【主な内容】

- 仙北組合総合病院移転新築整備について、秋田県は平成19年9月定例県議会で新たな支援を示しましたが、厚生連の経営状況が厳しく不透明な状況になっています。
- 市立角館総合病院の老朽化が顕著なため、院内に施設整備に係る検討委員会を設置、具体化に向け作業を進めています。
- 平成19年9月、市立田沢湖病院に常勤医1名が着任し3名による運営になりましたが、平成18年9月に休止した救急外来の回復に至っていない状況にあります。
- 仙北市では、平成18年10月に行政側に「医師確保対策室」を新設し、「地域医療改革会議」を立ち上げたほか、市議会においても「市立病院等経営に関する特別委員会」を設置し、医師確保対策と併せ経営改革について検討をしています。

■大仙・仙北の医療の現状【主な内容】

《人口》

- 平成20年10月1日年齢別人口で、仙北市の総人口は30,520人で、うち65歳以上の老年人口が32.5%を占めています。

《将来人口》

- 仙北市の将来推計人口は、平成22年度で3万人を切り、平成32年度では約2.6万人を割り込むなど、減少傾向が続く見込を示しています。

《医療圏域の病床数》

- 大仙・仙北医療圏域の病床数：一般病床978床、療養病床258床、精神病床540床、うち仙北市の両病院：一般病床306床、精神病床100床となっています。

《大仙・仙北管内基幹病院等の地区別利用状況》

- 仙北組合総合病院：大仙・仙北医療圏域の利用者が入院・外来とも全体の約96%超、うち仙北市からの利用者は入院・外来とも約8%になっています。
- 市立角館総合病院：市内からの利用者が外来で76.5%、入院で約72%程度で推移しています。
- 市立田沢湖病院：田沢・生保内地区の利用者が外来で約92%、入院で約86%程度で推移し、仙北市全体での外来・入院の利用者の割合は約98%を占めています。

■市立病院等の概要【主な内容】

《市立病院・診療所の現状》

- 仙北市の病院事業は、平成17年9月、2町1村の合併から、2つの市立病院、5つの診療所により運営されています。

《市立病院・診療所の経営状況》

- 市立角館総合病院：平成15年度以降の単年度収支の状況は、平成17年度を除き赤字での経営が続き厳しい状況にあります。
- 市立田沢湖病院：単年度収支の赤字が続き、特に平成18年度以降は医師不足等の影響で大幅な赤字経営となり、厳しい状況が続いています。
- 診療所：一般会計と特別会計により運営されており、西明寺・松木内診療所、神代診療所、田沢診療所については、単年度収支が黒字で推移しています。

《主な経営指標の実績》

- 市立角館総合病院：経常収支比率は100%に届かない状況ですが、経常収支均衡の水準数値に近い状況にあり、病床利用率では水準を上回って推移しています。
- 市立田沢湖病院：医師不足の影響から経常収支均衡の水準を大きく下回る状況になっています。

《外来・入院患者数の推移》

- 市立角館総合病院：平成15年度と平成19年度を比較した場合、入院で約19,700人、外来で約28,400人が減少し、以降も減少が続いています。
- 市立田沢湖病院：市立角館総合病院と同様に入院・外来とも減少を続けており、特に平成18年度以降は医師不足から大幅な減少となっています。

■仙北市立病院等改革推進計画の策定【主な内容】

1. 計画策定の背景

《診療報酬引き下げ等の影響》

- 病院事業経営の根幹となる医薬料金収入は、両病院とも毎年減少し、平成19年度の単年度収支で両病院併せて299,111千円の赤字となっています。病院経営の悪化は、医薬料金収入の減少が要因になっていますが、加えて医療の高度化に伴う医療機器整備費の増加と診療報酬の引き下げの継続が大きく影響していると考えられます。

《医師不足による影響の深刻化》

- 医師不足の影響は、救急外来の休止、診療科目の縮小を余儀なくされるほか、救急医療体制を整備している病院が市立角館総合病院のみになってから、不安を抱える市民があることや救急医療が1病院に集中することからの医師への過重負担なども問題となっており、診療体制の継続に大きな不安と影響を与えています。

《一般会計からの繰入金》

- 一般会計からの繰入金については、公営企業の観点から、一般会計に頼らない独立採算性を基本に、一般会計からの繰入金の縮減が求められている一方、一般会計による応分の負担が認められている不採算部門など、市立病院の責務として政策的に行う医療の提供に要する経費や病院の建設改良に要する経費等の基準内繰入が原則とされています。しかしながら、仙北市の財政事情は、病院事業会計のみならず、一般会計においても厳しい財政運営が続いており、市立病院の経営については、自立的な運営を目指し、引き続き徹底した経営の効率化が求められています。

2. 改革推進計画の必要性

- 公立病院を取り巻く環境は、医師不足などの影響から、さらに厳しい状況が予想され、医師の過重労働などから病院離れが加速し、地域の医療ニーズに応えられない状況が憂慮されています。そうしたことを踏まえ、必要な医療を安定的かつ継続的に提供するための抜本的な改革の検討を進めており、総務省が示した「公立病院改革ガイドライン」と併せ、中期的な経営改善の方針を定める計画を策定する必要があります。

3. 秋田県医療計画等における方向性

- 秋田県では、平成20年4月「秋田県医療保健福祉計画」を全面的に改定し、地域医療の中核となる自治体病院や厚生連病院などの公的医療機関への支援を強化し、良質かつ適正な医療提供体制を確立するとともに、中核病院の老朽化、狭隘化が著しい施設の適正規模での改築準備を促進することとしています。

■仙北市が目指す地域医療の将来像

基本理念

安心・安全そして信頼を確立する地域医療を目指して

基本方針

- ①地域医療連携をもとに、地域に安定した質の高い医療と看護を提供します。
- ②市民の命を守る充実した救急医療体制の構築を目指します。
- ③医療・福祉・保健が連携し、市民の健康管理と健康増進に貢献します。
- ④人とのふれあいを大切にし、利用者の心を癒す施設等の充実に努めます。
- ⑤地域の医療機関や関連施設と連携し、在宅医療への支援に努めます。
- ⑥良質な医療を安定的かつ継続的に提供するための健全経営の実現を目指します。
- ⑦常に医療水準の向上を図り、医療人としての誇りと働きがいのある病院を目指します。

■市立病院等改革の目指すもの【主な内容】

基本的な考え方

【具体的な内容】

1. 2つの市立病院を仙北市病院事業として組織を一元化します。
2. 市立角館総合病院を基幹病院に位置付け本院とし、市立田沢湖病院を分院として運営します。
3. 病院事業管理者を設置します。

市立病院等の果たすべき役割の明確化

【市立角館総合病院】

- ①基幹病院と位置付け、医療資源の集約化と適正配置を実施します。
- ②本院として運営し、地域医療ネットワーク化を構築します。
- ③急性期医療を中心として経営に取り組みます。
- ④医師確保対策に強力に取り組みます。
- ⑤適正な病床数を検討します。
- ⑥地元医師会との連携を検討します。

【市立田沢湖病院】

- ①障害者施設等一般病棟化への取り組みを実施します。
- ②市立病院の分院として運営します。
- ③地域医療ニーズに応える外来診療科目を継続します。
- ④救急医療早期再開のための体制整備を目指します。

【診療所】

・基幹病院を中心とする地域医療ネットワーク化への連携に取り組みます。

【各機関共通項】・在宅医療の充実を図るため、病院・診療所・地元医師会も含めた連携のための体制を検討します。

■市立病院等改革の視点に対する具体的な対応

経営の効率化

①基幹病院に医療資源を集約し各病院に適正な配置、②医薬材料等の一括購入、在庫管理の一元化、③民間委託の積極的な活用、④経営の効率化を図る適正な人事管理、⑤診療報酬改定に対応し、医療機能に見合った診療報酬の確保、⑥市立角館総合病院の適正な病床数の検討

再編・ネットワーク化

①市立角館総合病院を本院、市立田沢湖病院を分院として運営し、病院事業の経営・管理の一元化、②市立病院、診療所、地元医師会との連携体制を検討

経営形態の見直し

①組織を一元化した上で、仙北市病院事業管理者を設置

■改革推進計画の目標達成期間

市立病院等改革推進計画が示す3つの視点の目標達成期間は、平成21年度から平成25年度までの5年間とします。

■市立病院等改革の具体的な取り組み

経営指標に係る数値目標

単位:千円、%

項目	市立角館総合病院				市立田沢湖病院				市立2病院合算			
	経常損益	経常収支比率	医業収益比率	病床利用率	経常損益	経常収支比率	医業収益比率	病床利用率	経常損益	経常収支比率	医業収益比率	病床利用率
平成20年度	△ 233,949	94.5	91.9	77.8	△ 198,649	80.8	76.9	60.0	△ 432,598	91.8	89.0	75.1
平成21年度	△ 137,248	96.9	93.7	80.9	△ 145,955	86.0	82.7	60.0	△ 283,203	94.8	91.6	77.8
平成22年度	△ 117,318	97.3	94.4	80.9	△ 104,188	90.1	88.0	70.0	△ 221,506	95.9	93.1	79.3
平成23年度	△ 20,488	99.5	96.7	80.9	△ 104,227	90.1	88.1	70.0	△ 124,715	97.6	95.0	79.3
平成24年度	87,536	102.1	99.3	80.9	△ 105,919	89.9	88.0	70.0	△ 18,383	99.6	97.0	79.3
平成25年度	145,780	103.6	100.7	80.9	△ 106,305	89.9	88.1	70.0	39,475	100.8	98.2	79.3

【概ね経常収支均衡の水準とされる数値】 ○市立角館総合病院の場合: 経常収支比率 99.1%、医業収益比率 93.3%、病床利用率 79.3%(うち一般病床 81.1%)

○市立田沢湖病院の場合: 経常収支比率 101.2%、医業収支比率 85.7%、病床利用率 73.5%

■計画の実施状況の点検・評価・公表

計画の点検・評価

①点検・評価に際し、病床規模等が類似する他の公立病院等との比較を実施します。②計画の実施状況について、年1回の点検・評価を行います。③有識者等で組織する機関等へ諮問するなど、評価の客観性の確保に努めます。

積極的な情報開示

①策定した「市立病院等改革推進計画」について、速やかな公表を行います。(改定の場合を含む。)②計画の実施状況とは別に、市立病院等の現状について積極的な情報開示を行います。③公表にあたっては、理解と評価がしやすい内容に配慮した情報開示を行います。

改革推進計画の改定

①点検・評価を行った結果、計画の達成が著しく困難であると認められるときは、市立病院等改革推進計画策定委員会がまとめた意見集約報告書を基本に速やかに計画の改定を行います。

仙北市が目指す地域医療の将来像（計画要約図）

【基本理念】

安心・安全そして信頼を確立する地域医療を目指して

【基本方針】

掲げた基本理念を達成するため、安定的かつ継続的な地域医療を確保し、将来にわたり地域に根ざした医療・福祉・保健の連携体制の構築に貢献することとし、具体的な基本方針を次のとおりとします。

- ① 地域医療連携をもとに、地域に安定した質の高い医療と看護を提供します。
- ② 市民の命を守る充実した救急医療体制の構築を目指します。
- ③ 医療・福祉・保健が連携し、市民の健康管理と健康増進に貢献します。
- ④ 人とのふれあいを大切にし、利用者の心を癒す施設等の充実に努めます。
- ⑤ 地域の医療機関や関連施設と連携し、在宅医療への支援に努めます。
- ⑥ 良質な医療を安定的かつ継続的に供給するための健全経営の実現を目指します。
- ⑦ 常に医療水準の向上を図り、医療人としての誇りと働きがいのある病院を目指します。

市立病院等の果たすべき役割の明確化

【市立角館総合病院】

- ① 仙北市の基幹病院と位置付け、医療資源の集約化と適正配置を実施
- ② 市立病院の本院として運営し、診療所を含む地域医療ネットワーク化を構築
- ③ 急性期医療を中心とする経営への取り組み
- ④ 安定的かつ継続的な地域医療体制を確保する医師確保対策への強力な取り組み
- ⑤ 経営の効率化を図る適正な病床数の検討
- ⑥ 地域医療ネットワーク化の構築と地元開業医との連携を検討
- ⑦ 計画達成のための抜本的改革の検討を継続

【市立田沢湖病院】

- ① 経営改善を図る障害者施設等一般病棟化への取り組みを実施
- ② 基幹病院との連携を図り、市立病院の分院として運営
- ③ 地域医療ニーズに応えた外来診療科目の継続
- ④ 救急医療の早期再開のための体制整備
- ⑤ 計画達成のための抜本的改革の検討を継続

【診療所】

・基幹病院を中心とする地域医療ネットワーク化への連携

・在宅医療等の充実を図るため、病院・診療所・地元医師会も含めた連携体制を検討

市立病院等改革の3つの視点

【経営の効率化】

[目標達成期間：平成21年度～平成25年度]

- 基幹病院に医療資源を集約し、各病院等に適正な配置
- 医薬材料等の一括購入と徹底した在庫管理の一元化を実施
- 民間委託の積極的な活用を実施
- 経営の効率化を図る適正な人事管理を実施
- 診療報酬改定に対応し、医療機能に見合った診療報酬の確保
- 市立角館総合病院の適正な病床数の検討

【再編・ネットワーク化】

[目標達成期間：平成21年度～平成25年度]

- 市立角館総合病院を本院、市立田沢湖病院を分院とし、病院事業の経営・管理の一元化
- 市立病院、診療所、地元医師会との連携体制を検討

【経営形態の見直し】

[目標達成期間：平成21年度～平成25年度]

- 組織を一元化した上で、仙北市病院事業管理者を設置